



京都市内の宗教者対象

ゲートキーパー養成講座を終えて

宗教者は、自死念慮者や自死遺族など自死に関する苦悩を抱えた方と接する機会が多く、自死対策において重要な役割を担ってきたといえます。しかし、自死に関する苦悩を抱えた方への具体的な関わり方や連携方法については、専門的な知見や経験の蓄積が豊富にあるとはいえないのが現状だと認識しています。

そこで、京都市からの委託事業として、「京都市自殺総合対策推進計画」に基づき、〈自殺対策を身近な問題として捉えることができるように普及啓発していくこと〉および〈地域での「気づく」「声掛け」「見守る」「繋ぐ」体制づくりの中心的役割を担う人材「ゲートキーパー」を育成すること〉を目的として、宗教者を対象とした研修会および養成講座を開催いたしました。

本事業を通して、参加者の皆さまには、自死にまつわる苦悩を抱える方の苦悩が和らぐ関わり方の重要性を認識していただけたのではないかと思います。

アンケートでは、参加者の9割以上の方が〈とても良かった〉〈良かった〉と回答していただきました。スタッフとして参加していただいた Sotto のみんなの雰囲気とこれまでに培い共有してきた姿勢が、参加者にとって受講しやすい研修会になったのだと、とてもうれしく思っています。

参加者の皆さまには、それぞれの現場で、ぜひとも具体的な行動に移していただくことを期待しています。そして、一人でも多くの苦悩を抱えた方の苦悩が和らぐことを願っています。

(代表 竹本了悟)

被災地ノート①⑥

3月11日



震災からちょうど2年目の3月11日。
この日、仙台別院に、二人の来客があった。

ひとりは、

「この日の被災地を見ておきたいから」と遠方より訪ねてきてくれたボランティアだ。
震災から2年が経って、なお変わらない被災地の風景について感じたこと。
これから自分たちにできる支援とは何かを模索している、ということ話をしてくれた。
すこしでも被災地の役に立ちたいのだという気持ちが伝わって来て、頼もしく感じた。

もうひとり、

「この日に仮設で一人で過ごすとおかしくなりそうだから」と訪ねてきてくれた、仮設住宅にお住まいの方だ。他愛のない話が続いていくなかにも、どこか悲しげな笑顔が心に残った。何かを訴えたい、でも、言葉にならない。何から訴えたらいいのかも分からない。そうした想いが、その方の足をここまで運ばせたのかもしれない。

そのとき、その方の気持ちは「悲しかった」のか、それとも「寂しかった」のか、または「つらかった」のか、「怒っていた」のか、それはそのときに聞いてみなければ分からない。ひょっとすると、聞いてみても「分からない」と答えるかもしれない。

そうしたモヤモヤとした、言葉になる前の気持ちのところを大切にしながら、いまのその方との時間を過ごしたいと思った。

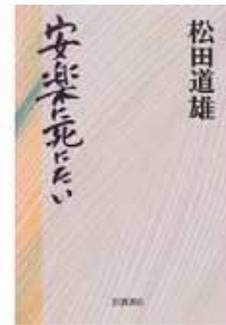
この日、支援者、被災者と呼ばれる人たち、全国から東北の被災地を見つめる人たちが、あの日に起きた震災のことを思い返したことだろう。

その人その人にとって、それぞれの思い、気持ちの動きが感じられた一日だった。

これから東北の被災地は、震災から3年目を迎える。

(ボランティア2期生 A.C.)

Sotto レビュー



『安楽に死にたい』

松田道雄著（岩波書店）

松田道雄といえば世代を超えたベストセラー「育児の百科」はあまりにも有名である。しかし、その中味は単なる子育て本の範疇に収まりきれない、人間愛に満ちた、ある種哲学的な育児書といえる。

その松田道夫が88歳の時に「安楽に死にたい」という本を出している。一見して「小児科医の権威である松田がなぜ」と思ったのが偽らざる思いであった。それまで松田は市民の立場に立って、医療や育児のあり方について発言をしてきたが、この本では自分自身の個人的な思いを綴っている。

「余命が苦痛（心のいたみも含めて）ばかりとなったら、形骸と化した生命を、自分の意思で消去することも個人の幸福の追求です」

誰でも安楽死をすべきだといっているのではない。苦痛に耐えて生き延びたいという人がいればそれはそれで立派な生き方だとしている。と同時に、自分が「安楽死を選ぶ権利を認めてほしい」と主張しているのだ。「市民的自由としての生死の選択」はあるべきだと松田は書いている。

松田道雄は89歳で老衰で亡くなった。亡くなる少し前に、医師から心臓の検査を勧められたが断っていたという。松田の胸の内にはどんな思いが秘められていたのだろうか。遺された者の思いはどうであったのだろうか。

(H.Y.)

今月のことば

やり直しのきかぬ人生であるが見直すことはできる

(金子大栄)

活動報告

- 3月期電話相談件数…145件（無言8件、よりそいホットライン48担当件を含む）
- 相談活動委員会
グループ研修 3月4日（月）4名、3月21日（木）4名
- 広報・発信委員会
委員会会議 3月27日（水）8名
- グリーフサポート委員会
委員会会議 3月14日（木）9名



寄付ご協力一覧（敬称略・順不同）2013年3月1日～3月31日

ご協力にこころより感謝いたします

浄土真宗本願寺派	葛野洋明
株式会社エクザム	庄司豊明
岐阜教区仏教婦人会連盟	匿名
岩波久美子	匿名
樫本純	岡田幸栄
西楽寺ローソク講	安藤孝雄
武田慶之	報専坊
岩国英子	
米谷恵子	

街頭活動でご協力いただいた皆様

●支援方法

賛助会員 年間1口3,000円
寄 付 金額は問いません
法人会員 年間1口10,000円

●会費・寄付金振り込み先

郵便時間 ゆうちょ銀行[振替口座] 00950-0-271875
他行間 ゆうちょ銀行[当座] ^{ゼロキョウキョウ}〇九九店 0271875

Sotto コメント

桜・桜・桜！の京都です。桜並木をじっくり眺めていると、同じ桜でも一本一本色や咲くタイミングが違うことに気づきます。せいじいっばいそれぞれの満開を迎えているようです。散ってしまうのはさびしい。また来年見られますように。(N.Y.)

発行 2013年4月

特定非営利活動法人 京都自死・自殺相談センター事務局
〒600-8349 京都市下京区西中筋通花屋町下ル堺町92
TEL 075-365-1600
URL <http://www.kyoto-jsc.jp>
E-mail so-dan@kyoto-jsc.jp